

派遣先所属 宮城県仙台地方振興事務所 農業農村整備部

氏 名 増田 亜希良 (ますだ あきら)

派遣期間 平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

## 1 派遣業務の内容、現況

派遣先の仙台地方振興事務所農業農村整備部では、主に津波で被災した農地の復旧・復興に関する業務を行っています。所属する農地整備第二班第 2 チームでは、宮城県の南部にある亶理郡亶理町を担当地区として受け持っています。

亶理町では、震災時の津波で沿岸部の家々や農地などが壊滅的な被害を受けました。農地にあった耕作土は流され、その上にガレキ混じりの土が堆積しました。また、農地に海水がかかったため、塩分が農地に残り、作物が育ちにくい土となってしまいました。

そのため、農家の方々が営農再開できるようこれらの被害を受けた農地の復旧が急がれています。

また、農地の復旧だけに留まらず、生産性の高い生産基盤による競争力のある経営体を育成するため農地の大区画化や農道・用排水路の整備も一体的に行っています。

担当業務は、農地に堆積したガレキ混じりの土からガレキを除去する災害復旧工事とほ場整備工事の設計・積算、発注、現場監督です。

現在の状況ですが、震災から 6 年以上が経過し、工事が完了した農地から、随時、営農が再開されています。まだ工事が完了していない範囲もありますが、今年度中に完了し、来年度には担当地区は全面営農が再開する予定です。

これまで、復旧・復興に携わってきた方々が繋げてくれた成果が、大きな形となって実るまで後一歩というところまでできています。



(亶理郡亶理町の位置)

(現在の担当地区の状況)

私が所属する農地整備第二班第 2 チームは、宮城県職員 5 名（うち 1 名は任期付職員）、高知県派遣職員 1 名、福井県派遣職員 1 名、私の計 8 名で業務を行っています。宮城県職員、派遣職員という隔たりはまったくなく、問題があれば皆で考えて解決に向かい、ささいなことでもお互いに相談しやすいような職場です。

## 2 被災地の復旧・復興の状況

平成29年9月30日（土）、10月1日（日）に、東北・みやぎ復興マラソン2017が開催されました。

「地域の心の復興」を実現する想いが込められており、このマラソンをきっかけに様々な賑わいを取り戻してもらいたいという取り組みでした。

フルマラソンを含め4種目あり、ランナーは約15,000名の参加、ボランティアも約3,000名の協力がありました。コースは津波で被災した名取市、岩沼市、亶理町の沿岸部が設定されており、全国から集まったランナーたちは復旧・復興状況を間近で見ることができ、地域の方々は給水所等のボランティアとして参加し、みんなが一体となって作り上げられた大会でした。

私もボランティアとして参加し、微力ながらお手伝いさせていただきました。



(スタート地点付近の看板)

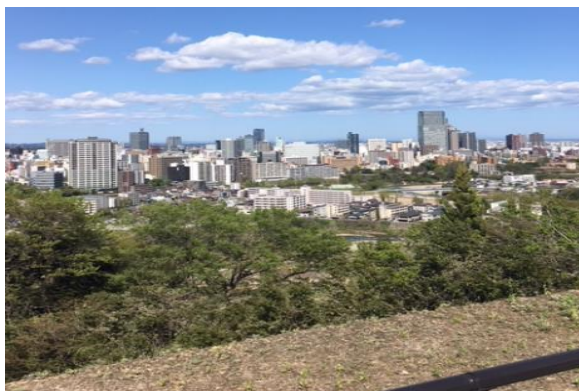


(フルマラソンの様子)

## 3 被災地へ派遣となって感じたこと

宮城県に派遣となって、宮城県には多くの魅力があり、素晴らしい県であると感じました。仙台市都心は、街並みがとてもきれいで、周りは山や広瀬川の自然に囲まれており、まさに杜の都と呼ぶにふさわしい街だと思います。海沿いの被災した市や町も復旧・復興が進み、訪れれば美味しい農産物や海鮮丼を食べることができます。

ここでは書き切れないほど、宮城県にはたくさんの魅力があります。宮城県を元気付けるためにも、是非、訪れてみてほしいと思います。



(仙台市都心部の風景)



(女川町の海鮮丼)